

令和5年度 学校園評価シート

1 教育目標	「自己を発揮し、共に育ちあう心豊かな子供の育成」
2 基本方針	身近な自然や様々な人と触れ合う中で感動体験を重ねながら、豊かな感性と人を大切にする心を育てる。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育を行い、幼児の主体性と友達との協同的な学びが育まれる環境を構成する。
3 指導目標	(1)豊かに感じ素直に表現する子供 (2)やさしく思いやりのある子供 (3)相手の思いを受け入れ共に活動する子供

A ; 十分成果があった B ; 現状でよい C ; 一部改善要する D ; 改善を要する

評価項目 評価	評価の観点	◎成果 △課題 ※改善策	評議員 評価
教育目標 B	諸課題に即した内容であったか、説明方法等で教職員の共通理解が図られたか。	◎朝の会議の中で、昨日の保育でうまくいかなかったことを今日の保育に生かしていく改善方法や、心の持ち方が大事であることを伝え合い、共通理解の場を図ってきたことで、保育の悩みを自分のこととして考え、保育に取り入れる職場になってきている。 △一つの例の内容を、別の課題にあてはめて考える応用力をつける。 ※課題を共有し、会議の場で自分の思いを積極的に伝える雰囲気を作る。	A
	幼児の発達に応じた経験や体験が得られるような援助や環境構成が計画的に行われていたか。		
保育活動 行事 B	発達に必要な援助が出来、主体的な遊びが展開できるような環境構成であったか。	◎個々に応じて増やす援助と減らす援助を見極め、幼児同士が互いに考えを出し合いながら物事を進めていく見守りや、視覚的な援助をその都度教師同士で考えていった。片付けも学びの場となるよう、5を一つのかたまりとした入れ物や、長さ、重さ、大きさ、色、形などにも意識できるような提案をしたことで、片付けの中に、物を比べるといった意識が生まれた。 ◎教師自ら自然を見つけてきたものを保育室に飾ったり作品を一緒に作成したりする、雨、風、氷、光と影など自然現象を保育に取り入れるなどして、不思議さ、美しさ、面白さなどに気づかせていく工夫を行ったことで、幼児の知的好奇心を高めていくことができた。 △気候変動による暑さで、戸外での運動遊びに制限がゆかり、思い切り体を動かす心地よさを感じるには至らなかった。2学期の行事の内容と時期の検討が必要となっている。 ※造形展の内容を親子で楽しめるものに変更する。	A
	自然体験や友達との交流を通して、豊かな感性や社会性を培う心の教育が出来ているか。		
	各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意工夫され、幼児にとってふさわしい内容であったか。		
運営・組織と 研修・研究 B	教職員が互いに努力を認め合い、励まし合える明るい職場づくりに努めているか。	◎職員の資質向上に、レガッタ・抹茶体験、バレエ鑑賞・ピアノ発表などを行い、保育以外でも感性を刺激し合う教師集団となっている。 ◎報道された社会的事件や自然災害から、危機管理マニュアルの見直しや、避難訓練の実施と振り返りをし、職員間でも危機感をもって訓練をするようになった。 ◎保護者のニーズに沿った園運営（預かり保育、給食提供、車での送迎）の中で、園の状況に応じてルールを決め試行的に行っている。 ◎常態的な人手不足と働き方改革をどのように解消していくかを考え、時間と人の配置を有効的に運用することで、解消できている。 △危機管理面、園運営面に関して、ぎりぎりの職員で行っているため、実際に問題が起こった場合を考えると不安が残る。 △防犯カメラの設置について現段階では、モニターの管理ができないことで、設置が見送られている。	A
	安全や防災に関する組織を作り常に危機管理運営意識を持って向上に努めているか。		
	時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、積極的に園内外・研修会に参加し、自らの資質向上に努めているか。		
家庭・地域との 連携 C	子育ての不安や悩みを受け止め、地域の子育てセンターとしての役割を果たしているか。	◎楽しい講演会を目指して、PTA主体の親子活動が行われてきた。親子共通の経験を保育に生かし「幼児期の終わりまでに育てたい姿」を可視化していくことで、保護者に「遊びからの学び」の意味を伝えることができた。 △参観している保護者に子供の学びをリアルタイムで伝え、さらに理解を広めていく。 ※自分の保育を語るよう研修をしていく。	B

学校園関係者評価

○音楽会、生活発表会と参観して、幼児の集中力や記憶力には驚かされる。遊びの中で、様々な経験をし、そこから学んでいるからこそ、記憶に残っていく。本物の記憶というのはこれからも大事である。	評価
○危険だから禁止するという傾向があるが、なぜ危ないのかを知らせ、感じさせることで、危険を自分で判断し回避できるようにすることが大事である。運動能力をつけたり、ルールを考えたりするなどの力をつけてほしい。	
○能登半島地震を教訓に、危機管理マニュアルの見直しや、避難訓練の実施と振り返りをしていることで、教師が命を守る教育を意識していることが分かった。	
○生活発表会での壁面に関する思いや、評議委員会で説明を受けた「遊びから学びへ」の具体的な教師の意図を、保護者にもするべきである。	
○どの団体も、後継者がいないことに悩まされる。PTAから、保護者会に代わっても、役員同士で楽しい会になるよう努力することが大切である。	
A	